

## 平成22年3月期 第1四半期決算短信

平成21年8月11日

上場取引所 東大

上場会社名 中外鉱業株式会社  
 コード番号 1491 URL <http://www.chugaikogyo.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) IR センター室長  
 四半期報告書提出予定日 平成21年8月14日  
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 安藤 道明  
 (氏名) 桜庭 勲

TEL 03-3201-1541

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第1四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	8,457	△9.4	△646	—	△649	—	△654	—
21年3月期第1四半期	9,330	—	△108	—	△117	—	△2,625	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
22年3月期第1四半期	△2.26	—
21年3月期第1四半期	△9.06	—

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円銭	百万円	円銭	%	円銭	円銭	
22年3月期第1四半期	9,737	—	8,780	—	90.2	—	30.31	
21年3月期	9,976	—	9,435	—	94.6	—	32.57	

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 8,780百万円 21年3月期 9,435百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
21年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
第2四半期	17,500	△20.6	40	△98.3	10	△99.6	0	—	0.00
連結累計期間	39,000	6.6	330	△79.5	280	△82.0	250	—	0.79

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
新規 一社 (社名 ) 除外 一社 (社名 )

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第1四半期	289,747,982株	21年3月期	289,747,982株
② 期末自己株式数	22年3月期第1四半期	83,468株	21年3月期	82,738株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第1四半期	289,664,844株	21年3月期第1四半期	289,668,488株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご参照下さい。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、金融危機に端を発した世界的な景気悪化から一部底打ちの兆しが見えてきたものの、企業業績や設備投資の減少、雇用情勢の悪化など依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような経済状況のもとで、当社グループ（当社及び連結子会社）は貴金属市況において、金・銀・プラチナ等の貴金属価格の下落は概ね下げ止まりつつあるものの、景気低迷による需要の減少から低調に推移いたしました。不動産市況においても、金融市場の混乱に加え、信用収縮等により市況の悪化が進み、依然厳しい環境のもと推移いたしました。

この結果、当第1四半期の売上高は8,457,459千円（前年同期9,330,739千円）、営業損益は646,021千円の損失（前年同期108,918千円の損失）、経常損益は649,756千円の損失（前年同期117,559千円の損失）、四半期純損益は、654,838千円の損失（前年同期2,625,463千円の損失）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

貴金属事業におきましては、東京工場（大田区京浜島）において、生産効率の高い最新の金精製設備の増設を完了し、平成21年4月から月産1,000キログラムの金精製体制が整いました。これにより金生産量は前年同期を上回ったものの、増産設備に見合う適正な原料集荷等、安定操業の維持が困難であったことに加え、固定費の増加等が影響し業績は低迷いたしました。

この結果、売上高は8,377,301千円（前年同期8,838,033千円）、営業損益は73,291千円の損失（前年同期73,715千円の利益）となりました。

不動産事業におきましては、首都圏分譲マンション等の価格下落や住宅ローン減税の拡充等の影響により、一部で在庫調整が進捗するなど好転の兆候がみられるものの、企業収益の悪化に伴う主要都市における空室率の上昇、賃料水準の下落等から、不動産市況は依然厳しい環境のもと推移すると考えられます。

また、不動産価額の下落に伴い、「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用によるたな卸資産の評価損の計上を行いました。

この結果、売上高は14,216千円（前年同期27,267千円）、営業損益は177,458千円の損失（前年同期8,213千円の損失）となりました。

機械事業におきましては、景気刺激策を基に新興国など一部で景気悪化の底打ちが見られるものの、世界的な景気後退による工作機械の受注は依然低迷を続けており、中古工作機械業界においても設備投資抑制の影響を大きく受け、業績は低迷いたしました。

この結果、売上高は65,940千円（前年同期465,438千円）、営業損益は84,470千円の損失（前年同期30,028千円の損失）となりました。

投資事業におきましては、有利で安定した運用を基本とし、有価証券等に投資を行っておりますが、投資事業損益は213,687千円の損失となりました。

### 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期末における総資産の残高は、前連結会計年度末より239,405千円減少し、当第1四半期末は、9,737,329千円となりました。

増加の主なものは、現金及び預金の増加（1,830,190千円から2,205,610千円へ375,420千円の増加）であります。

減少の主なものは、仕掛不動産の減少（1,463,178千円から1,298,861千円へ164,317千円の減少）、預け金の減少（1,762,263千円から1,536,194千円へ226,068千円の減少）であります。

当第1四半期末における負債の残高は、前連結会計年度末より415,459千円増加し、当第1四半期末は、957,031千円となりました。

増加の主なものは、長期借入金の増加（2,625千円から425,515千円へ422,890千円の増加）であります。

減少の主なものは、未払金の減少（189,015千円から93,009千円へ96,005千円の減少）であります。

当第1四半期末における純資産の残高は、前連結会計年度末より654,864千円減少し、当第1四半期末は、8,780,297千円となりました。

減少の主なものは、利益剰余金の減少（△3,316,168千円から△3,971,006千円へ654,838千円の減少）であります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前連結会計年度末より1,386,842千円減少し、当第1四半期連結会計期間末は2,205,610千円となりました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」

営業活動の結果使用した資金は1,815,949千円(前年同四半期は40,792千円の使用)となりました。これは主に税金等調整前四半期純損益が649,697千円の損失、預け金の増加1,536,194千円に対し、たな卸資産の減少額240,287千円があったことによるものであります。なお、預け金の残高は証券会社預け金として現金同等物の残高に含めて表示しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より預け金の増加として表示しております。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」

投資活動の結果使用した資金は57,068千円(前年同四半期は47,327千円の使用)となりました。これは主に有価証券の償還による収入10,000千円、長期貸付金の回収による収入5,000千円に対し、有形固定資産の取得による支出72,588千円があったことによるものであります。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」

財務活動の結果得られた資金は486,175千円(前年同四半期は20,585千円の使用)となりました。これは主に長期借入金による収入500,000千円があったことによるものであります。

### 3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年5月15日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5 . 四半期連結財務諸表  
 ( 1 ) 四半期連結貸借対照表

( 単位 : 千円 )

	当第 1 四半期連結会計期間末 (平成21年 6 月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年 3 月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,205,610	1,830,190
受取手形及び売掛金	1,664,537	1,762,514
有価証券	4,000	14,000
商品及び製品	453,158	393,672
仕掛品	319,242	473,852
原材料及び貯蔵品	67,886	48,732
仕掛不動産	1,298,861	1,463,178
預け金	1,536,194	1,762,263
その他	44,775	70,127
貸倒引当金	2,806	2,770
流動資産合計	7,591,460	7,815,762
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	448,478	446,203
減価償却累計額	123,908	116,851
建物及び構築物 ( 純額 )	324,569	329,352
機械装置及び運搬具	519,373	512,039
減価償却累計額	219,260	202,592
機械装置及び運搬具 ( 純額 )	300,112	309,446
土地	826,811	826,811
その他	79,244	77,124
減価償却累計額	52,977	50,865
その他 ( 純額 )	26,267	26,259
有形固定資産合計	1,477,760	1,491,870
無形固定資産		
地上権	365,000	365,000
その他	7,418	7,654
無形固定資産合計	372,418	372,654
投資その他の資産		
投資有価証券	101,946	101,946
長期未収入金	401,993	401,993
出資金	9,205	9,205
敷金及び保証金	162,936	163,810
その他	21,603	21,503
貸倒引当金	401,994	402,010
投資その他の資産合計	295,689	296,447
固定資産合計	2,145,868	2,160,971
資産合計	9,737,329	9,976,734

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	38,329	12,965
短期借入金	48,000	49,000
1年内返済予定の長期借入金	102,186	37,576
未払金	93,009	189,015
未払法人税等	12,576	36,224
債務保証損失引当金	89,264	89,264
その他	61,040	33,255
流動負債合計	444,406	447,300
固定負債		
長期借入金	425,515	2,625
長期末払金	76,947	81,483
金属鉱業等鉱害防止引当金	7,033	7,033
預り敷金保証金	3,130	3,130
固定負債合計	512,625	94,271
負債合計	957,031	541,571
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,782,064	12,782,064
利益剰余金	3,971,006	3,316,168
自己株式	30,760	30,734
株主資本合計	8,780,297	9,435,162
純資産合計	8,780,297	9,435,162
負債純資産合計	9,737,329	9,976,734

(2) 四半期連結損益計算書  
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	9,330,739	8,457,459
売上原価	8,983,297	8,765,862
売上総利益又は売上総損失( )	347,442	308,402
販売費及び一般管理費	456,360	337,619
営業損失( )	108,918	646,021
営業外収益		
受取利息	2	14
国庫補助金収入	9,618	9,473
違約金収入	-	7,000
その他	6,872	4,688
営業外収益合計	16,493	21,175
営業外費用		
支払利息	571	416
休山管理費	22,969	22,914
その他	1,594	1,578
営業外費用合計	25,134	24,910
経常損失( )	117,559	649,756
特別利益		
貸倒引当金戻入額	-	59
特別利益合計	-	59
特別損失		
仕掛不動産評価損	1,804,083	-
減損損失	698,429	-
その他	33	-
特別損失合計	2,502,545	-
税金等調整前四半期純損失( )	2,620,105	649,697
法人税、住民税及び事業税	5,444	5,141
法人税等合計	5,444	5,141
少数株主損失( )	86	-
四半期純損失( )	2,625,463	654,838

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失( )	2,620,105	649,697
減価償却費	16,970	25,588
減損損失	698,429	-
貸倒引当金の増減額( は減少)	79	20
受取利息及び受取配当金	2	14
支払利息	571	416
有価証券売却損益( は益)	1,645	-
仕掛不動産評価損	1,804,083	-
売上債権の増減額( は増加)	207,715	97,977
たな卸資産の増減額( は増加)	1,571	240,287
仮払金の増減額( は増加)	200,000	979
仕入債務の増減額( は減少)	92,316	25,364
未払金の増減額( は減少)	-	34,476
預け金の増減額( は増加)	-	1,536,194
その他	3,699	36,213
小計	19,147	1,793,535
利息及び配当金の受取額	2	0
利息の支払額	571	396
法人税等の支払額	21,076	22,017
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>40,792</b>	<b>1,815,949</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の売却による収入	16,539	-
有価証券の償還による収入	-	10,000
有形固定資産の取得による支出	55,265	72,588
無形固定資産の取得による支出	1,648	-
長期貸付金の回収による収入	-	5,000
敷金及び保証金の差入による支出	7,336	208
その他	384	728
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>47,327</b>	<b>57,068</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の返済による支出	-	1,000
長期借入れによる収入	-	500,000
長期借入金の返済による支出	20,000	12,500
配当金の支払額	561	298
その他	23	25
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>20,585</b>	<b>486,175</b>
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	108,705	1,386,842
現金及び現金同等物の期首残高	1,191,370	3,592,453
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,082,664	2,205,610



(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年6月30日）

	精金事業 (千円)	不動産事業 (千円)	機械事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	8,838,033	27,267	465,438	9,330,739	—	9,330,739
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	7,200	—	7,200	(7,200)	—
計	8,838,033	34,467	465,438	9,337,939	(7,200)	9,330,739
営業利益（△は損失）	73,715	△8,213	△30,028	35,473	(144,391)	△108,918

当第1四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年6月30日）

	貴金属事業 (千円)	不動産事業 (千円)	機械事業 (千円)	投資事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	8,377,301	14,216	65,940	—	8,457,459	—	8,457,459
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	4,265	—	—	4,265	(4,265)	—
計	8,377,301	18,482	65,940	—	8,461,724	(4,265)	8,457,459
営業損失（△）	△73,291	△177,458	△84,470	△213,687	△548,907	(97,114)	△646,021

(注) 1. 事業区分は、事業の性質及び業種別に区分しております。

2. 各区分に属する主要な製品及び事業内容

事業区分	主要製品及び事業内容
貴金属事業	金地金、銀地金、白金地金、パラジウム地金等の生産販売 含金銀非鉄金属の仕入販売
不動産事業	不動産の売買、分譲・賃貸マンションの販売、賃貸、仲介、保守管理
機械事業	各種中古工作機械、鉸金機械等の売買
投資事業	有価証券の保有、売買、運用その他の投資

3. 精金事業は、平成20年7月1日付で事業拡大の一環として宝飾部門を新設したことに伴い、名称を貴金属事業に変更いたしました。

4. 投資事業は、重要性が増したことから、事業内容をより適切に表示するためセグメント区分することになりました。

[所在地別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年6月30日）及び当第1四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年6月30日）は、本邦以外の国または地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため該当事項はありません。

[海外売上高]

前第1四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年6月30日）及び当第1四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年6月30日）は、海外売上高がないため、該当事項はありません。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。